

令和2年4月1日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

大阪府		
学 校	管理機関名	設置者の別
柏原市立内小学校（2校）	柏原市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
小学校（2校）	学校便りにて公表	学校便りにて公表

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校低学年からの外国語活動

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

10年以上前より学びの連続性の核として、特例校ではコミュニケーション力を一つの柱として教育実践を積み重ねている。コミュニケーション力を育み、自らの考えを表現し、集団の中で主体的に生きていく力や、国際化の中で自立して生きていく力をつけるために、特別の教育課程を編成して教育を実施する必要がある。

(3) 特例の適用開始日

2009年4月1日及び2011年4月1日

(4) 取組の期間

本計画による教育課程の特例が学習指導要領の範囲内となるまで。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている
・一部、計画通り実施できていない
・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- (
○実施している
・実施していない
)

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

低学年から高学年及び小学校から中学校における学びの連続性と、国際社会で活躍する人材育成の重要性に鑑み、コミュニケーション力育成の手段として、低学年より外国語活動に取り組んでいる。本特例による教育課程の成果は、児童アンケートの肯定的な回答割合の高さに表れている。一方、自らの考えを発表したり、表現したりする活動についての積極性に課題がみられる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している小学校においては、各校の環境を活かし、連続性を重視した一貫教育により、学校教育診断やアンケート等において「授業が楽しい」「自分で課題を立てて情報を集め整理する」「話し合いを活かして自分が努力すべきことを決めて取り組む」等の項目で肯定的回答の割合が高い。

一方で、全国学力・学習状況調査や柏原市で実施している統一テストの結果について明確な効果の確認が難しいという課題がある。

5. 課題の改善のための取組の方向性

英語活動をとおして、コミュニケーション力を培い、その力を「主体的・対話的で深い学び」に結びつけられるようにする授業改善や校内研修を推進する。